

SONY

ホームシアタースピーカーシステム

SA-FT7ED

取扱説明書

2-634-474-03(1)

お買い上げいただきありがとうございます。

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

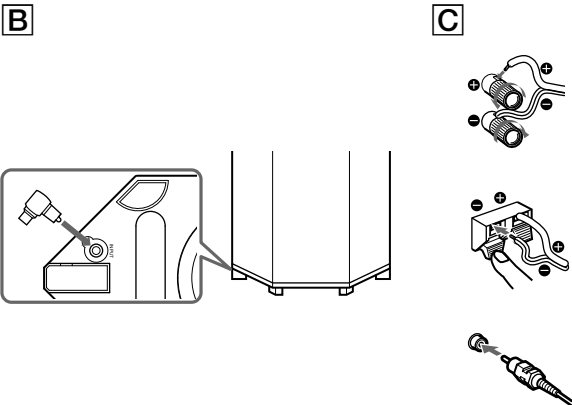
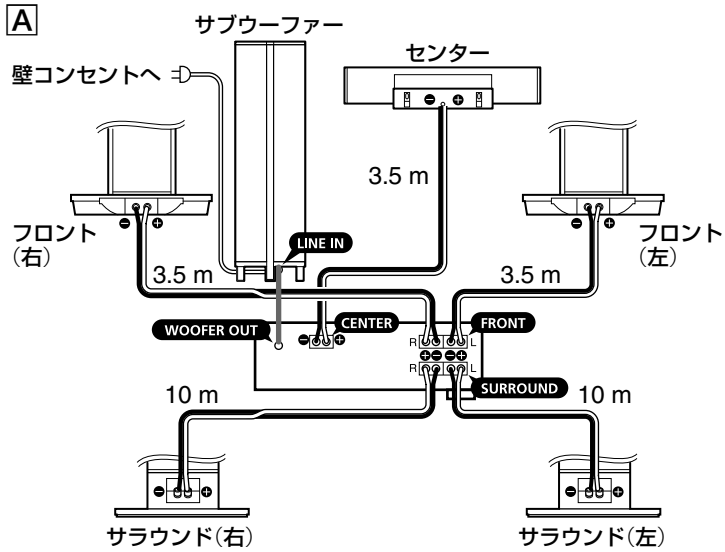
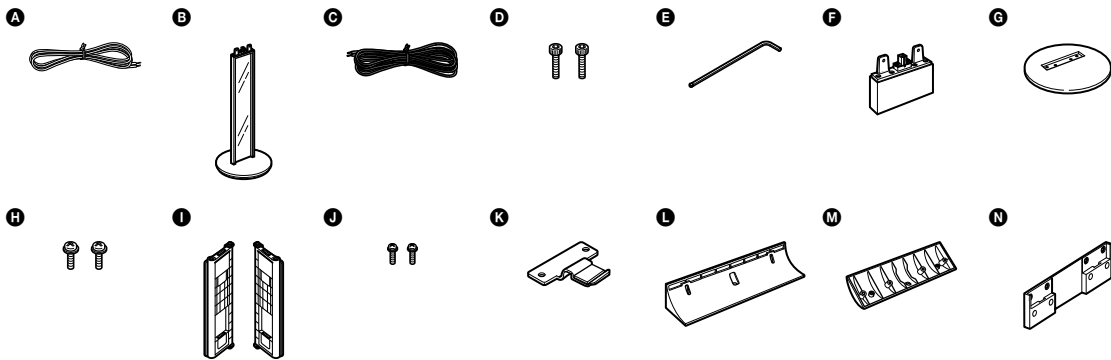
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この**取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

付属品と設置方法

本機のスピーカーはフロアスタンド、テーブルトップスタンドと壁掛けブラケットのいずれかの設置方法でお使いいただけます。それぞれの設置方法に必要な付属品は下表をご覧ください。

フロント/サラウンドスピーカー
(フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの区別はありません)

付属品	設置方法		
	フロア スタンド	テーブル トップ スタンド	壁掛け ブラケット
フロントスピーカー用			
A スピーカーコード (3.5 m) × 2	○	○	○
B フロアスタンド × 2	○	-	-
サラウンドスピーカー用			
C スピーカーコード (10 m) × 2	-	○	○
フロント/サラウンドスピーカー用			
D 六角ネジ× 8	○	○	○
E 六角レンチ× 1	○	○	○
F ターミナル アダプター× 4	-	○	○
G テーブルトップ スタンドベース × 2	-	○	-
H M5ネジ× 8	-	○	-
I 壁掛けブラケッ ト× 4	-	-	○
J M4ネジ× 16	-	-	○
K 壁掛けフック× 8	-	-	○



このスピーカーシステムについて

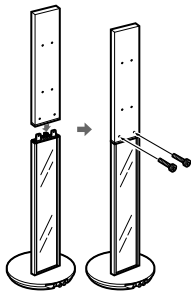
5.1チャンネル対応のスピーカーシステムです。フロントスピーカー 2台とサラウンドスピーカー 2台(フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの区別はありません)、センタースピーカー 1台、サブウーファー 1台のシステムです。ソニーデジタルシネマサウンド(Sony Digital Cinema Sound)やドルビー*プロロジック(Dolby Pro Logic)、ドルビーデジタル(Dolby Digital)などに対応し、映像ソフトの鑑賞に適しています。

* Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

組み立てかた

フロアスタンドを取り付ける
(フロントスピーカー用)

1 フロアスタンド(**E**)にフロントスピーカーを取り付け、六角レンチ(**E**)を使って六角ネジ(**D**)をしっかりと固定する。



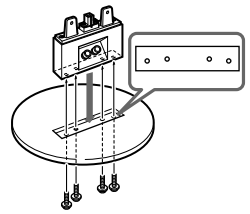
強化ガラスについての安全上のご注意
本機のフロアスタンドには、強化ガラスを使っています。

強化ガラスはまちがった使いかたをすると、一般のガラスよりも弱い場合があります。ガラスが破損すると、大怪我を負ったり、ときには失明に至ることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

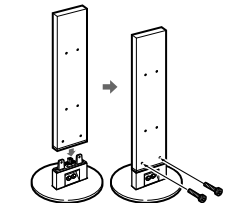
- 強い衝撃を与えない
高いところから落としたり、物をぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。特に角や端に固い物をぶつけると、それほど強い力でなくても割れることがあります。
- 傷をつけない
小さな欠けや傷が原因で、瞬時に割れることがあります。傷つけた直後には割れず、思いがけないときに突然割れることもあります。欠けや傷に気づいた場合は、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口に変換を依頼してください。
- 極端な温度変化を与えない
強化ガラスは耐熱ガラスではありません。熱いものを上に載せたり、そばに近づけたりしないでください。極端な温度変化でガラスが割れることがあります。

テーブルトップスタンドを取り付ける
(フロント/サラウンドスピーカー用)

1 ターミナルアダプター(**F**)をテーブルトップスタンドベース(**G**)に取り付け、M5ネジ(**H**)で固定する。

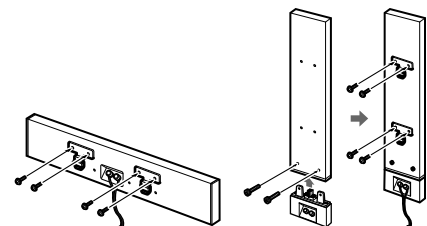


2 フロントまたはサラウンドスピーカーをターミナルアダプター(**F**)に取り付け、六角ネジ(**D**)で固定する。

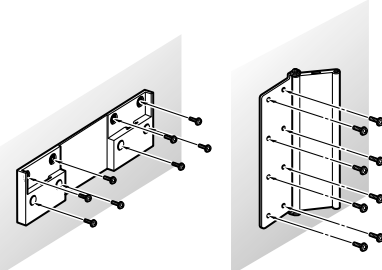


壁掛けブラケットを取り付ける
(フロント/サラウンド/センタースピーカー用)

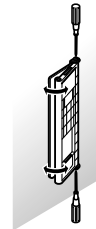
1 フロントとサラウンドスピーカーは、ターミナルアダプター(**F**)を取り付けてから壁掛けブラケットを取り付けてください。
スピーカー後面に壁掛けフック(**K**)を取り付け、M4ネジ(**J**)で固定してから、スピーカーコード(**A**)または(**C**)を接続する。



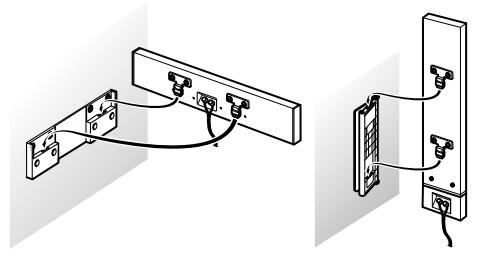
2 壁に壁掛けブラケット((**I**)または(**N**))を取り付け、市販のネジで固定する。



3 壁掛けブラケット(**I**)の向きを調節し、ネジを固定する(フロントとサラウンドスピーカーのみ)。



4 スピーカー後面につけた壁掛けフック(**K**)を壁掛けブラケット((**I**)または(**N**))の穴に差し込む。

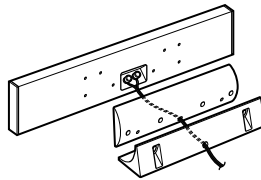


ご注意

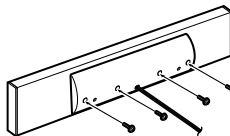
- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。特に石膏ボードの壁はもろいため、梁のあるところにネジを差し込んでしっかり留めてください。垂直で表面が平らな補強された壁に取り付けてください。
- 壁の材質や使用するネジについては、ネジの販売店または取り付け業者にお問い合わせください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

センタースピーカースタンドを取り付ける
(センタースピーカー用)

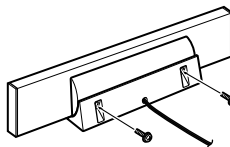
1 スピーカーコード(**A**)をセンタースピーカースタンドのベース(**L**)とアジャスター(**M**)の穴から通し、センタースピーカーに接続する。



2 M4ネジ(**J**)でアジャスター(**M**)をセンタースピーカーに固定する。



3 お好みの角度に調節し、M5ネジ(**H**)でベース(**L**)をアジャスター(**M**)に固定する。



目隠しシールを貼り付ける

スピーカーをスタンドに取り付けて使う場合、付属の目隠しシールでスピーカー後面にある壁掛け用のネジ穴を隠すことができます。フロント/サラウンドスピーカーを壁にかけて使う場合、付属の目隠しシールでターミナルアダプターの底面にあるネジ穴を隠すことができます。

接続する

接続する前に、必ず各機器(サブウーファーを含む)の電源を切り、電源コードを抜いてください。ご使用になるアンプに各スピーカーを接続します(表面**[A]**)。オーディオ接続コードはサブウーファーにL型アダプターを取り付けてから接続します(表面**[B]**)。

ご注意(表面**[C]**)

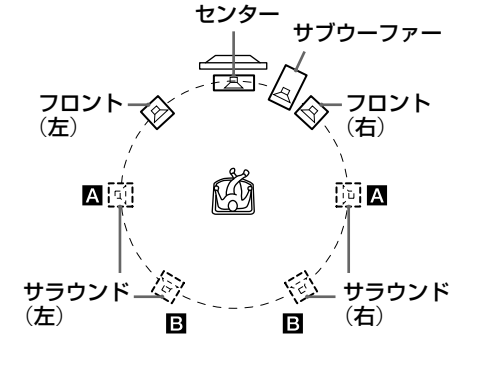
- スピーカーの⊕端子はアンプの⊕端子に、⊖端子は⊖端子に接続してください。
- スピーカー端子のノブは、しっかりと締めてください。ゆるんでいると雑音の原因になります。
- すべてのスピーカーが確実に接続されていることをお確かめください。スピーカーコードの芯線どうしが、接触したり、他のスピーカー端子に触れていると、アンプの故障や音の出ない原因になります。
- アンプ側の接続について詳しくは、ご使用のアンプの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

黒または黒い線の入ったスピーカーコードを⊖側に接続すると決めておくと、間違わずに接続できます。

設置する

各スピーカーの配置



各スピーカーをリスニングポジションに向けて置きます。サラウンドをお楽しみいただくには、すべてのスピーカーをリスニングポジションから同じ距離に置くと効果的です。フロントスピーカーはテレビから少し離して置いてください。サブウーファーはテレビの近くに置いてください。センタースピーカーはテレビの近くに置いてください(テレビの上の不安定なところには置かないでください)。サラウンドスピーカーは部屋の形によって、リスニングポジションの両側**[A]**、またはリスニングポジションの後ろ側**[B]**に置くことができます。

ご注意

スピーカーやスピーカースタンドは、水平で平らな場所に置いてください。

ちょっと一言

サブウーファーを壁のコーナーに寄せて置くこともできます。

アンプを設定する

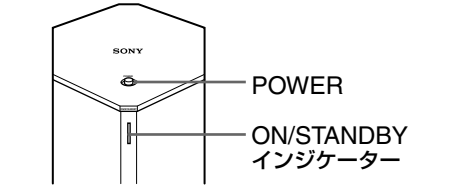
マルチチャンネルデコーダー(ドルビーデジタルやDTS*など)を搭載したアンプで本機をお使いになる場合、以下の表のようにアンプの設定をしてください。設定のしかたは、ご使用のアンプの取扱説明書をご覧ください。

メニュー	設定
フロントスピーカー	SMALL
センタースピーカー	SMALL
サラウンドスピーカー	SMALL
サブウーファー	ON(またはYES)

ご使用のアンプのクロスオーバー周波数が調整可能であれば、120Hz(またはこれに近い数値)をフロント、センター、サラウンドスピーカーのクロスオーバー周波数として選んでください。

* DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems Inc.の登録商標です。

聞く



はじめにアンプの音量を絞っておきます。アンプやウーファーの音量は、音源を再生するまで上げないでください。

1 アンプの電源を入れ、音源を選ぶ。

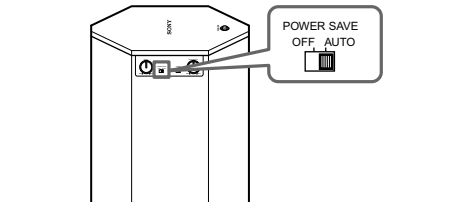
2 POWERを押す。
ON/STANDBYインジケーターが緑色に点灯します。

3 音源を再生する。

電源の入/切を自動的にする

ーオートパワーオン/オフ機能

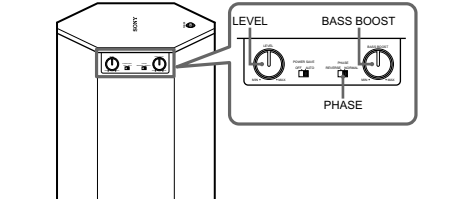
サブウーファーの電源が入っているとき(ON/STANDBYインジケーターが緑色に点灯)、信号が入力されない状態が数分続くと、パワーセーブ状態になります(ON/STANDBYインジケーターが赤色に点灯)。このとき再び信号が入力されると、サブウーファーの電源は自動的に「入」になります。この機能を使いたくないときは、サブウーファーのPOWER SAVEスイッチをOFFにしてください。



ご注意

アンプの音量を極端に小さくしていると、オートパワーオン/オフ機能が働き、パワーセーブ状態になることがあります。

サブウーファーを調節する



1 LEVELつまみを回す。

音源に適した音量にします。

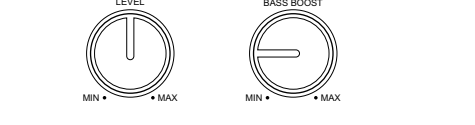
2 位相を切り換える。

PHASE(位相)スイッチで切り換えます。

3 BASS BOOSTをMINにセットする。

お好みに応じてBASS BOOSTつまみを調節してください。LEVELつまみとBASS BOOSTつまみの推奨位置は、下記です。

LEVELつまみ BASS BOOSTつまみ



音源によっては過度に低音が強調された録音状態のものが 있습니다。この場合は、BASS BOOSTつまみをMINに合わせてください。

ご注意

- アンプの音声増強機能の影響で、サブウーファーの音が歪むことがあります。この場合はそれらの機能を切ってください。
- より高音質でお楽しみいただくために、サブウーファーの出力は出しすぎないようにしてください。
- アンプの低音調節機能(DBFB、GROOVE、グラフィックイコライザーなど)をONにすると、音が歪むことがあります。この場合はアンプの低音増強機能を切って音を調節してください。
- サブウーファーの音量の上げすぎにご注意ください。上げすぎると低音が軽くなったり、力強さがなくなることがあります。さらに上げると音源にないノイズが出る場合があります。
- フロントスピーカーの種類やサブウーファーの設置場所、BASS BOOSTつまみの位置によっては、PHASEスイッチで切り換えた方が低音再生が良くなる場合があります。お好みに応じて「NORMAL」または「REVERSE」に切り換えてお使いください。また低音だけでなく、全帯域にわたって音の広がりや印象が変化し、音場感に影響します。お好みに応じて切り換えてください。

使用上のご注意

アンプやプログラムソースの電源のON/OFF、スイッチの切り換え時には

アンプの音量を最小にしてください。

スピーカーやウーファーの破損を防ぐために

- スピーカーユニット、エンクロージャーは分解したり改造したりしないでください。
- 大きな音を出しすぎると、音質を損ねたり、スピーカーを破損する恐れがありますので、LEVEL(音量)つまみの位置にご注意ください。

テレビ画面に色むらが起きたら

このスピーカーシステムは防磁型(JEITA*)のため、テレビのそばに置いて使うことができますが、テレビの種類により色むらが起こる場合があります。

色むらが起きたら…

- いったんテレビの電源を切り、15 ～ 30分後に再びスイッチを入れてください。

それでも色むらが残るときは…

- スピーカーをさらにテレビから離してください。

さらに…

- スピーカーの近くに磁気を発生するものがないようにご注意ください。スピーカーとの相互作用により、色むらを起こす場合があります。**磁気を発生するもの**……ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

* 電子情報技術産業協会の略称です。

スピーカーコードの接続について

スピーカーコードがショートしていると音が出ないだけでなくアンプの故障の原因となります。スピーカーを正しく接続してください。

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- 温度の高いところ、直射日光の当たるところ
- ほこりの多いところ
- 湿気の多いところ
- 振動がプレーヤーに伝わるところ(ハウリング防止のため)
- 極端に寒いところ

ハウリングについて

サブウーファーをレコードプレーヤーのそばに置くと、「ポワーン」というハウリング現象が起こることがあります。また、まれにカセットデッキやCD/DVDプレーヤーでも音圧による振動により、音や画像が乱れることがあります。このような場合は、本機との距離を離すか、音量を下げてお使いください。

ボリュームレベルは音が歪まない範囲で設定してください。

お手入れについて

付属のクリーニングクロスで拭いてください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、となり近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓をしめたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

故障かな?と思ったら

修理に出す前にもう1度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

音が出ない

- スピーカーコードが正しく接続されていない。
 - スピーカーコードを正しく接続してください。
- アンプの音量(ボリューム)が下がっている。
 - アンプの音量(ボリューム)を上げてください。
- アンプの音源が正しく選ばれていない。
 - 再生されているオーディオ機器を選んでください。
- ヘッドフォンを差したままにしている。
 - ヘッドフォンを抜いてください。

音が歪む

- アンプの音声増強機能をONにしている。
 - アンプの音声増強機能をOFFにしてください。

ハム音や雑音が出る

スピーカーコードが正しく接続されていない。

- スピーカーコードを正しく接続してください。
- オーディオ機器などが、テレビなどノイズを出す機器の近くに設置されている。
- テレビなどから離して設置してください。

急に音が出なくなった

- スピーカーコードの芯線が互いに接触して、ショートしている。
- スピーカーコードの芯線がアンプの他のスピーカー端子に触れて、ショートしている。
 - スピーカーコードを正しく接続してください。スピーカーコードがショートしていると、アンプの故障の原因ともなります。

オートパワーオン/オフ機能を働かせているときに、サブウーファーの電源が自動的に入らない

- パワースイッチをOFFにし、10秒後ONにします。それでもSTANDBY状態のときは、ACコードを抜いてソニーサービス窓口にご相談ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名:**SA-FT7ED
- 故障の状態:**できるだけ詳しく
- 購入年月日:**

主な仕様

本機は「高調波ガイドライン適合品」です。

SS-FR7ED	
(フロント/サラウンドスピーカー)	
形式	2 way、防磁型(JEITA*)
使用スピーカー	ウーファー 10 cm、コーン型 トゥイーター 20 mm、ドーム型
エンクロージャー方式	バスレフ型
定格インピーダンス	8 Ω
最大入力(JEITA*)	120 W
出力音圧レベル	84 dB(1 W、1 m)
実効周波数帯域	120 ～ 70,000 Hz

最大外形寸法(幅/高さ/奥行き)	約130×510×30 mm
フロアスタンド取付時	約130×1,100×30 mm (底面直径280 mm)
テーブルトップスタンド取付時	約130×585×30 mm (底面直径250 mm)
壁掛けブラケット取付時	約130×576×50 mm
質量	約2.0 kg
フロアスタンド取付時	約7.7 kg
テーブルトップスタンド取付時	約3.3 kg
壁掛けブラケット取付時	約2.5 kg

SS-CNF7ED(センタースピーカー)	
形式	2 way、防磁型(JEITA*)
使用スピーカー	ウーファー 8 cm、コーン型×2 トゥイーター 20 mm、ドーム型
エンクロージャー方式	バスレフ型
定格インピーダンス	8 Ω
最大入力(JEITA*)	120 W
出力音圧レベル	84 dB(1 W、1 m)
実効周波数帯域	130 ～ 70,000 Hz
最大外形寸法(幅/高さ/奥行き)	約500×94×30 mm
テーブルトップスタンド取付時	約500×108×66 mm
壁掛けブラケット取付時	約500×94×42 mm
質量	約1.6 kg
テーブルトップスタンド取付時	約1.8 kg
壁掛けブラケット取付時	約1.7 kg

SA-WFT7(サブウーファー)	
形式	アクティブサブウーファー、防磁型(JEITA*)
使用スピーカー	ウーファー 15 cm、コーン型
エンクロージャー方式	アコースティックローデットバスレフ型
再生周波数帯域	26 ～ 200 Hz
実用最大出力(JEITA*)	250 W

入力端子ライン	ライン入力(ピンジャック)
電源、その他	
電源	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	85 W 0.3 W(スタンバイモード)
最大外形寸法(幅/高さ/奥行き)	約175×610×298 mm
質量	約11 kg

付属品	
スピーカーコード(3.5 m)(3) スピーカーコード(10 m)(2) オーディオ接続コード(2 m)(1) フロアスタンド(2) ターミナルアダプター(4) テーブルトップスタンドベース(2) センタースピーカースタンドベース(1) センタースピーカースタンドアジャスター(1) 壁掛けブラケット(フロント/サラウンドスピーカー用)(4) 壁掛けブラケット(センタースピーカー用)(1) 壁掛けフック(10) 六角ネジ(8) M5ネジ(10) M4ネジ(20) 六角レンチ(1) L型アダプター(1) 目隠しシール(スピーカー用)(1) 目隠しシール(ターミナルアダプター用)(4) クリーニングクロス(1)	
* JEITA(電子情報技術産業協会)の規格による測定値です。	

仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。		http://www.sony.co.jp/support	
使い方	フリーダイヤル……………0120-333-020	➡	左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
相談窓口	携帯電話・PHS・一部のIP電話・0466-31-2511		
修理	フリーダイヤル……………0120-222-330	➡	受付時間 月～金 9:00～20:00 土・日・祝日 9:00～17:00
相談窓口	携帯電話・PHS・一部のIP電話・0466-31-2531		
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。			
ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1			